

3月定例会

豊川市議会第1回定例会（3月定例会）は、2月27日から3月20日までの22日間にわたって開かれました。

3月2日と3日の2日間にわたり、代表質問では5名、一般質問では11名の議員が、市政全般についての市の考え方や方針をたどしました。主な質問と答弁の要旨は、次のとおりです。

今回、代表質問を行った会派は、信政会、新風会、豊清会、市民クラブ、日本共産党豊川市議団でした。

代表質問

平成18年度施政方針 並びに予算案等について



信政会

【問】

新年度予算編成において、特に意を注いだ点

平成十七年度中に合併する市町村に対して、国や県の財政支援策が講じられているが、新年度予算への反映状況 十八年度が三位一体改革の重点期間の最終年度であり、改革の成果が問われる年度であるが、その認識を伺う。

【答】

第五次総合計画の六つの政策をもとに、将来を見越した施策に積極的に取り組み、「元

気の出るまち、住みたくなるまち みんなでつくろう豊川」という目標を掲げて実現していきたい。特にその中で視点を置いた点は、合併による拡大した地域の一体性ある基盤整備と、均衡ある整備である。また、市内に大勢の外国人が居住されており、こついった方々や多文化共

生という視点に立つて「国際課」を新設し、国際化に向けて様々な取り組みを行っていききたい。

国の市町村合併推進体制整備費補助、県の合併特例交付金といった合併支援としての財源を計上するとともに、合併特例債を有効利用して財源を確保し、市民の快適な暮らしを支える基盤整備を効果的に推進していく。

十八年度までの改革としては一応の決着を見ているが、基幹税における税源移譲を三億円規模で実現する一定の成果をという意味で、まだまだ十分ではない。地方の自主・自立という事を考えると、今後課題が残されていると認識している。

18年度予算での新総合計画、 合併の取り扱いについて



新風会

【問】 国の三位一体改革で地方の創意工夫が求められる中、市の行政運営やまちづくりの長期的指針となる、第五次豊川市総合計画がスタートの年度であり、旧一宮町との合併後、初と

なる新年度予算にどのような施策が反映されたのか伺う。

【答】

総合計画期間初期に想定すべき事業を新年度予算に反映しており、総合の分野では、まち

づくり振興基金を積み立て、市民の連帯強化と地域振興を図る。安全・安心の分野では消防署一宮出張所の移転建設、高規格救急車の配備、防災対策として公共施設の耐震改修事業を計上した。健康・福祉の分野では新市民病院建設に向けて基本構想策定費を予算措置。建設・整備の分野では豊川駅東と豊川西部の区画整理事業、旧一宮大木地区の区画整理組合補助、国府駅周辺バリアフリー基本計画委託料を予算措置し、他にスポーツ公園、御油松並木公園、手取山公園（仮称）についても計上している。教育・文化の分野では新給食センター建設に向けた調査費、児童・生徒の学力向上のため学級運営支援、少人数教育事業を予算措置している。産業・交流の分野では工業用地開発に向け企業立地適地調査費、また企画部に国際課を設置し、姉妹・友好都市提携に向けた調査費を予算措置。行政・協働の分野ではコミュニティ活動のための市民活動推進事業費を計上した。

平成18年度施政方針 並びに予算案等について



豊 清 会

【問】 新年度予算編成における子育て支援、防災・防犯対策といった重点施策への取り組み、政府の新しい地方財政計画の方針を踏まえて、今後の財源確保についての考え方を伺う。

【答】 子育て支援は人づくりの一環であり、国の制度改正により拡充された児童手当などの経済的支援と併せて、つどいの広場事業やファミリーサポートセンター事業など、地域で支え合う体制の強化に取り組んでいる。防災対策については、前々年度より公共施設の耐震改修を推進しているが、加えて災害時の避難路や輸送路の確保も重要であることから橋の耐震改修事業にも着手していく。

まちづくりの重要な課題である防犯対策については、市民がみずから行う対策をさらに推し進めるため、それらに要する経費の一部を補助していく防犯対

策補助事業を新設していく。また市内の全小・中学校に防犯カメラを設置して犯罪に強いまちづくりに取り組んでいく。
財源確保については、地方分権を推進し自主性を拡大する取り組みとして、行財政改革による事業の精査と国・県の補助制度、合併特例債の活用、企業誘致による税収の向上であり、今後も取り組んでいく。

平成18年度一般会計予算、 第5次総合計画について



市 民 ク ラ ブ

【問】 第五次総合計画スタートの年として人づくり懇談会提言、元気の出るまち豊川提案事業、各種団体ヒアリング調査及び市長のマニフェストがどのようにに計画及び今回の予算に反映されたか伺う。

【答】 人づくり懇談会に提言された外国人の窓口となる組織の設置を計画に組み、今回新たに国際課を設置し、友好都市の調査のため国際交流事業費を措置した。また子育て支援、公共交通

の利便性向上対策を計画し、今回予算の中で子育て支援センター事業、ファミリーサポートセンター事業、そして交通バリアフリー整備事業を位置づけた。元気の出るまち豊川提案事業を受けて三世交代交流事業の実施、安全・安心な農作物の提供、市民小菜園の運営、河川環境整備のため桜並木の整備などを計画に反映して、今回の予算に西古瀬川の散策路の整備を位置づけた。各種団体ヒアリング調査を受けて子供に関する業務を一元化し、子ども課を設置した。まちづくり振興基金の活用を計画に反映し積立金を予算に反映した。市長のマニフェストとして地域医療体制を充実させる計画及び工業振興計画を実現させるべく新市民病院整備事業費、企業立地適地調査費を予算措置した。

施政方針と 予算案大綱について



日本共産党豊川市議団

【問】 市長は、「元気の出るまち、住みたくなるまち みんなでつ

くろう豊川」の実現を目指すとしている。そこで、格差社会をめぐる認識、地方財政計画における地方一般財源の本市の状況、指定管理者制度における公共性の確保、各施策における弱者対策、住民参加の考え——について伺う。

【答】 地方も公正な競争による景気回復に留意し、地域住民の安定した生活を確保するための施策の実施が必要と認識している。十八年度地方財政計画においての地方一般財源は、前年度並を確保している。本市の場合、当初予算比較では、二・七割の減となっている。指定管理者の指定の意義や施設の管理運営にあたり、協定書で公共性を確保し、事業報告書の提出、必要に応じた実地調査及び指示等の指導、監督権限等の中で、適正な管理運営を担保していく。障害者自立支援法実施に伴い、個別の文書で国の軽減策の申請の徹底を行うが、市独自の軽減策は考えていない。国保の高額療養費受領委任払い制度も、制度の採用に向けて研究していく。また、市民懇談会の意見を基に関係事業者と協議を行い、交通バリアフリー基本構想へ位置づけ、整備を検討していく。

一般質問

豊川駅東土地区画整理の進捗状況について



一括質問方式

【問】 豊川駅東土地区画整理事業の残りの事業費が五十四パーセントで、補償工事などの進捗率が低いように思われるがどうか。二号調整池の上面については、広場の周りに樹木を植栽し、緑地として兼用するということだが、地元の要望はどのように選択されたか。また、一号調整池については、家屋移転が済んでいない部分が一部あるが、どのように工事を進めるのか。三明公園防火水槽の取り組みについて伺う。

【答】 都市計画道路等の進捗率が低いという指摘は、駅前広場とか百パーセントのものもあるが、残りの事業費では、大変厳しい状況にある。今後は、工事手法及び工事コストなどの見直しをなお一層して、事業費の削減を図

つていきたい。二号調整池の上面整備のトイレ等については、地元の要望が非常に強いことは十分承知をしているので、前向きに対処していきたい。また、一号調整池について、家屋移転が済んでいない部分については、避ける形で築造をしていく。三明寺には防火用放水銃が整備されており、防火水槽はその役目を終えているので、平成十八年には周辺整備とあわせて撤去したい。

名鉄国府駅交通バリアフリー基本計画の進捗状況と西部土地区画整理事業地内の公園等整備について



一問一答方式

【問】 名鉄国府駅バリアフリー計画の対象者、整備範囲、整備内容と時期について、また、西部土地区画整理地内の一号公園、大池周辺、西古瀬川周辺の整備内容と時期について伺う。

【答】 ご高齢の方や障害をお持ちの方はもちろん、小さいお子さんを連れた方や妊産婦など全ての人を対象とする。整備範囲は、国府駅を中心に半径1.5

kmの範囲。具体的には、国府駅の橋上通路、東西出口、駅前広場、さらに国府駅と養護学校・国分尼寺・国府市民館・東三河ふるさと公園などの公共施設や名所旧跡を結ぶ道路。国府駅改札内から各ホームへのエレベーター三基と東西出口のエレベーターは平成二十二年完成を目指す。改札口を車椅子対応の広いものとし、トイレも多機能型とする。西部土地区画整理地内の一号公園は、地元住民の方によるワークショップでの検討を経て基本計画がまとまった段階である。十八年度に実施設計、二十年度に完成の予定。大池周辺は、散策路を設けるなどして一号公園と一体的に利用できるように整備する。西古瀬川の両岸に百五十本の河津桜を植え、ベンチや照明を設置した散策路を平成二十年度完成で計画。

児童・生徒の安全対策について



一括質問方式

【問】 児童・生徒の安全対策

のため設置する防犯カメラの目的と具体的活用。不審者情報の一斉配信システムの導入。小学校防犯啓発事業と学校内での安全確保としての警備員配置の考えについて伺う。

【答】 不審者への心理的な抑止、校内での建物、器物の損壊行為の抑制、録画機能により不審者の特定、安全・安心な学校づくりを目的として、一校当たり四台の防犯カメラを整備し、モニターは職員室に設置、随時チェックすることを想定している。配信する情報の内容、実施主体、配信対象の範囲など実施方法の課題をさらに検討し、国の調査研究事業や警察署など関係機関の動向等も踏まえて、できる限り早い時期に運用を開始したい。シルバー人材センターに委託し、小学校区のパトロールと校内の巡回活動を行うことや防犯カメラの設置、地域の防犯ボランティアとの連携強化を図りたい。また、警備員の配置は、平成十七年度から愛知県でもスクールガードの養成と県内小学校への警察OBのスクールガードリーダーの巡回指導を新規に取り組み、本市にも派遣予定と聞いている。この成果を踏まえ今後検討したい。

河津桜

静岡県賀茂郡河津町で毎年3月上旬に満開になるピンク色の桜で、開花から約1ヶ月を経て満開となる。この桜は、本州でも早咲きの種類に分類され開花の過程を楽しめ、さらに満開を長く維持できる特徴の桜である。

ワークショップ

参加者が専門家の助言を得ながら、問題解決のために行う研究会。

一宮地区における建設整備計画について



一問一答方式

【問】 大木地区区画整理事業の状況及び見通し

【答】 現段階では、総事業費が事業認可の際よりも相当上回る状況である。十年の事業期間を尊重し、調整しながら進めていく。

【問】 東三河環状線の大崎工区での進捗状況 三蔵子一宮工区の見通し 四ツ家交差点から古宿樽井線整備の考え

【答】 十六年度より用地買収を行い、この二年間で約半分の取得の見込み 大崎工区の開通を待たずに、早期の着手を県に強く要望する 交差点改良を含めて先行供用も可能であるので、それを踏まえ、県に願います。

【問】 県道三蔵子一宮線の歩道設置の考え 今後の見通し

【答】 歩道設置の必要性は高く、交通安全事業として実施していくことは可能な路線と認識している 具体的な時期は言えないが、全力で対応していく。

ないが、全力で対応していく。

【問】 手取山公園（仮称）に本宮の湯などの既存施設を取り込んだ、一体的な整備の考え 今後の整備計画

【答】 計画区域を手取山と東上球場を含む約七〇〇を予定 十八年度より、既存施設を一体的に考えた基本設計を予定。五力年をかけて進めていきたいと考えている。

遊休農地の活用対策（市民農園）について



一括質問方式

【問】 全国の耕作放棄地面積が増加しており、この遊休農地解消策の一環として、昨年九月、「特定農地貸付法」が市民農園の展開を後押しするため改正された。豊川市やひまわり農協の市民農園は開設以来好評で、利用申し込みの順番待ちもあると聞いている。そこで、市民農園の今後の考えと、農園の所有者への公的な支援について伺う。

【答】 市開設の市民小菜園について、区画数を大幅に超える利用希望者がないため増やすことは考えていない。しかし、今までのように市が直接運営をするのではなく、農家や個人、企業NPO等が市民農園を運営するという手法を中心に、拡充を検討していきたい。そのために、市内の耕作放棄地の現状と、農地所有者の農地利用の意向を把握し、その活用方法について、農業委員会と協議する中で、市民農園として市に貸してもよいという農家を発掘して、開設者に対して、協定や貸付規定の整備、利用者の募集などについて支援することが必要と考えている。開設に必要な手続きについての支援や農園のPRについては、積極的にやりたい。休憩所や農機具倉庫等の施設整備については、補助などができるかどうか検討をしていきたい。

豊川市の都市計画道路について



一問一答方式

【問】 都市計画道路三路線の状況について 姫街道線のJ Rと

のアンダー化と開発の遅れ 稲荷線の計画道路の廃止と大幅な変更の考え方 豊川牧野線の計画がアンダー化になっているが、実情に合っておらず、計画内容の見直し、変更が必要と思うがどうか——について伺う。

【答】 姫街道線は全区間九・七kmのうち約五kmが未整備で、現在事業中の市田工区が完了してからとなるが、一刻も早く整備することは十分理解をしている。アンダー化についても、市田工区の工事終了段階で用地買収に入る準備を、県と今後十分調整を図っていく。豊川駅西地区道路景観形成計画、及び豊川市中心市街地商業等活性化基本計画策定において専門家を交えた議論の中で、あえて拡張せず、現道を生かし、門前にふさわしい美しい町並みにしたいとの指摘があつたことは認識している。市と県との事前協議の中で、まちの将来のための計画変更、もしくは廃止したいという考えに、県の理解をいただいている。見直し、変更は消極的で、非常に難しいと思っているが、東豊踏切閉鎖に伴い、鈴与踏切の拡幅改良についてJ R側に申し入れを行っており、これを踏まえて今後検討していく。

特定農地貸付法

地方公共団体または農協が行う、(1) 10a未満の農地の貸付で、相当数の者を対象として定型的な条件で行われるもの、(2) 営利を目的としない農作物の栽培用の農地、(3) 5年を超えない農地の貸付で賃借権その他の使用及び収益を目的とする権利の設定とされている。

スクールガード

地域や学校を巡回し、安全指導を行うもの。

一宮地区住民の 関心事について



【問】大木区画整理地区の雨水排水問題の解消には

【答】周辺地区を含め、総合的な排水計画の見直しを検討しており、しっかりと答えを出してから整備に着手する。

【問】国道151号バイパスの今後は

【答】夏をめどに、新城市と整備促進期成同盟会を立ち上げる。今後、県と協議する中で、少しでも早い事業認可が取れるよう努力する。

【問】旧一宮町地域の下水道整備計画の将来見通しは

【答】20年度以降の拡張計画は、18、19年度で地域の要望や生活環境、公衆衛生の状況により見直しを行い、補助金枠を確保して進めたいと考えている。

【問】新築住宅での合併浄化槽設置に対する補助の考えは

【答】13年度から切り替えだけの補助となった背景に、財政状

況が厳しくなったということもあり、ご理解をいただきたい。

【問】合併協議会の資料の新産業拠点と位置づけた地域への企業誘致の構想があるのか

【答】また、構想はないが、企業立地適地調査の候補地の一つとしてあげていきたい。

21世紀の企業として優位な企業の誘致を、私（市長）の責務と思っている。

巡回バスの実施、総合支所の存続及び 子どもの医療費無料化の拡大について



【問】合併で広くなった豊川市には、公共交通機関の充実が重要と考えるが、本市における公共巡回バス実施の考え

【答】総合支所は五年経過後も、存続すべきと考えるが、五年以内に見直すとした根拠、存続させる考え、少子化対策としても有効であり、子育て支援としても要望の強い、子どもの医療費無料化の拡大の考え——について伺う。

【答】合併による市域の拡大、高齢者の増加、新市民病院建設な

ど、公共交通機関から遠い地域住民の交通アクセスの充実は大きな課題と考えている。豊川北部線を含め、運行ルートやコスト、料金体系等の総合的な検討や地域住民を始め広く意見を聴き、民間バス事業者のノウハウ等も参考にした最適な運営方法の検討が必要である。しかし、市の第三セクター方式を取ることはしない。おおむね適正規模となる二十二年度、合併後五年をめどに機能の見直しが了承されている。支所の存続には、住民の意見、利用状況、さらに合併の目的、社会状況等を勘案し、必要性や活用方法を検討する。対象者八千六百の増加により、年間約三億円が市の負担で必要になることから、市独自ではできないと考える。国、県レベルで行うべきと考えている。

【問】旧両市町の防災無線の整備状況 伝達方法の違い 旧

防災無線と新市民病院 用地選定について



豊川市地域へ同報無線設置の場合の費用 情報伝達手段の格差は正への考え

【答】旧豊川市では、防災関係・ライフライン関係機関、避難所など百五十六局の地域防災無線を整備、旧一宮町では、同報系の防災行政無線として、五カ所の屋外スピーカーと避難所や各家庭に戸別受信器を整備している。旧豊川市では、各機関等との双方方向の送受信が可能、旧一宮町では、避難所・各家庭の戸別受信器での伝達のみ。旧豊川市全世帯への戸別受信器設置には、総額で約三十億。携帯メールを活用した、あんしん・防災ネットの拡充、CATVを活用した、緊急文字情報システムの構築を関係機関と検討。エフエム豊橋の活用、地上波デジタル放送の活用の検討を行っている。

【問】市民病院現在地が建設候補地四カ所に含まれた理由 現在地での建て替えが可能と考えたわけ

【答】現在地は当初から候補の一つとして、調査研究を重ね、建設の条件も満たしていると判断。制約、課題はあるが、建物の高層化、駐車場の立体化など、土地の高度利用により可能と考える。

地方債の活用についてなど



一問一答方式

【問】団塊の世代の定年退職対応で地方債活用の考えは

【答】退職手当の財源確保で、市民サービス低下があつてはならないと考えており、12年から退職手当基金を積み立てているが、十分な額ではないことから、その時点の状況によるが、退職手当の活用も視野に入れておく必要があると考えている。

【問】地域の将来を見据えた合併後の環境変化への対応ができる行政経営能力を獲得し、第五次総合計画の実行への考え

【答】限られた経営資源のマネージメントが重要となる。財源面では、市税の増収が効果的で、計画には重点事業の一つとして、新産業地域の整備、充実により企業誘致の早期実現を目指す。人材面では、少数精鋭の市役所となるよう、事務事業の整理、職員の能力向上、人事・給与制度の見直しが必要と考えている。

【問】町内会の目標加入率の設定根拠と今後、市が望む町内会のあり方は

【答】本来、加入率100%が望ましい。現状の低下傾向に歯どめをかけ、上方に転じる努力目標として設定。市の下請団体的なイメージ打開のため、地域住民の自治意識の高揚、町内会の自立性を強めていくことが必要と考えている。

御油の松並木・青年層に対する行政サービスについて



一問一答方式

【問】

27年ぶりに改正された保存管理計画の内容、池田並木線整備の進捗状況と今後の予定

保全施策 アスファルト撤去、迂回路設置 歩行者等の安全確保 松並木公園の現状と今後の予定 資料館の今後

【答】

昭和54年に策定した計画を、より具体的な保護・保存の方法で検討した。今年度末に用地買収完了予定で、18年度からの二力年の整備予定である第一期の補植期間、17年度から

の五年間で55本の補植を計画、薬剤による樹勢回復、倒木防止措置の実施 保護には必要であるが、今後も地元、関係部署との継続的な協議を重ねる 暫定的な措置として、車両規制、一方通行等の規制強化を検討 今年度は、約一億円で用地買収、測量調査を行っている。今後は用地取得の進捗を図り、21年度以降で工事着手を予定 西部地区の施設のネットワーク化の検討の中で、移転も検討していく。

【問】 青年層向け文化事業の考え ロビーコンサートの概要

【答】 文化的な体験機会を提供することは重要であり、今後もその充実に取り組む 市民が発案、実行する文化事業として、18年度から公共施設でのロビーコンサートを桜ヶ丘ミュージアムのロビーで予定している。

その他の質問項目

- ・ふるさと公園の地元住民の不安に対する対策について
- ・子ども課について
- ・一宮地区における安全・安心のまちづくりについて
- ・保育園について
- ・旧一宮町立小中学校での「低学年学級特別支援員」「不登校支援員」について
- ・手取山公園整備にかかわる「まちづくりアンケート」について

この三月定例会より、豊川市議会では市民にわかりやすい、開かれた議会を目指すため、議会改革研究会において検討してきました、代表質問制と一問一答方式を試行として導入しました。

代表質問にあつては、予算大綱説明（三月定例会）及び所信表明・施政方針に対して行います。

一般質問においては、従来の一括質問方式に加えて、一問一答方式の選択制とし、一括質問方式が質問回数三回以内、時間無制限に対し、一問一答方式は質問回数無制限、時間六十分制限で行いました。